

■森格 政治家。中学出ながら中国での活躍で{三井}に貢献、政界に転身し、対満蒙積極論者の主役となるも、急逝。

もりかく

新体詩抄・1882 = 大阪江戸堀で、旧幕臣で代言人森作太郎の子に生まれる。母はサダ。

五番目の子ながら、上の4人が皆夭折していたため、実質長男となる一方、母が病弱だったため、農家に里子に出されるが、養家は貧しく十分な食事でもできずに育つ。

一時大伯父に預けられた後、実家に戻るが、

帝国憲法発布1889 = 7歳：

足尾鉾毒始・1891 = 9歳：母が死去。新たにきた継母と折合い悪く、

大本教・・・1892 = 10歳：一旦上京し、慶応幼稚舎に転学後、

郡司千島探検1893 = 11歳：大阪師範付属高等小学校に入学、

日清戦争始・1894 = 12歳：

白馬会・・・1896 = 14歳：大阪の北野中学校に入学。

子規句歌革新1898 = 16歳：東京の商工中学校へ転校し、

ビア/国産化・1900 = 18歳：

田中正造直訴1901 = 19歳：同校卒業。東京高等商業学校受験するも不合格となり、父の友人山本条太郎の紹介で、上海に渡り、

教科書疑獄・1902 = 20歳：三井物産上海支店の"支那修業生"となり、中国語と英語に熟達、伝記を読んで'東洋のセシル=ローズたらん'との抱負をいただき、大陸への進出をめざす。上海支店長山本条太郎の知遇をうけ、

日露戦争始・1904 = 22歳：<日露戦争>の際にはバルチック艦隊の発見に活躍、

日露戦争終・1905 = 23歳：正社員となり、利権と引換えに孫文に革命資金を斡旋するなど、中国の政情に乗じた商権拡張に奔走、

韓国反日暴動1907 = 25歳：長沙出張所の開設に尽力した。

伊藤博文暗殺1909 = 27歳：

大逆事件判決1911 = 29歳：ニューヨーク勤務となるが、<辛亥革命勃発>するや東京本店勤務となり、孫文らの革命派を支援して借款供与や利権獲得に努める。

明治天皇没・1912 = 30歳：桂太郎首相に会い、対中国政策を論じる。

大正政変・・・1913 = 31歳：満州買収を孫文と約束。中国興業株式会社(のち中日実業株式会社)を設立し取締役。瓜生外吉海軍大将の三女で三井財閥の巨頭益田孝の姪にあたる栄枝と結婚、以後、対中国投資・資源開発に手腕を発揮。

第一次大戦始1914 = 32歳：天津支店長となり、

21ヶ条要求・1915 = 33歳：大隈内閣による<二十一箇条要求>を支持して活躍。

民本主義・・・1916 = 34歳：塔連炭鉱の鉱業権を取得し、

ロシア革命・1917 = 35歳：東洋炭礦を興す。東京に森格事務所を開き、上海・北京・青島に支所を置く。東洋製鉄を創立。

本格政党内閣1918 = 36歳：立憲政友会へ入党し、

ハルビン条約・1919 = 37歳：慶応義塾で「支那解放論」を講演、熊本で最初の政治演説、

大暴落・・・1920 = 38歳：*三井物産を退社、神奈川県から立候補して衆議院議員に当選、たちまち頭角をあらわし、

原敬首相暗殺1921 = 39歳：近衛文磨らと憲法研究会を組織し、

関東大震災・1923 = 41歳：院内幹事となり、貴族院改革を主張した。

護憲三派圧勝1924 = 42歳：総選挙には落選したが、横田千之助の栃木県的地盤を継承して補欠選挙で当選し、

中国革命進展の中で<対満蒙積極論者>の相貌をあらわし、以後、軍部と結び、政友会ひいては政界右傾の牽引力となって行く。

円本時代始・1926 = 44歳：北伐に際しては内争不干渉政策をとる幣原外交を"軟弱外交"と攻撃。

金融恐慌・・・1927 = 45歳：政友会の田中義一内閣成立とともに外務政務次官となり、3回にわたる山東出兵を推進、田中首相兼外相とともに東方会議を主催、満蒙第一主義(満蒙は日本の"陸の生命線"との主張)の観点から関東軍と提携して強硬な満蒙分離政策を唱えるなど、一貫して中国侵略政策を推進した。

世界恐慌・・・1929 = 47歳：*政友会幹事長に就任し、田中内閣総辞職後に、田中総裁が急死すると、党内の動揺を抑えて犬養毅の総裁就任を実現させ、その手腕を称賛された。浜口・第2次若槻内閣と対決、

海軍軍縮条約1930 = 48歳：<ロンドン海軍軍縮条約>には軍部強硬派などと組み、統帥権干犯論を高唱して反対、

満洲事変・・・1931 = 49歳：幣原喜重郎首相代理の失言問題追及の急先鋒となり、<満洲事変>が勃発するとこれを積極的に支持、犬養内閣の成立とともに内閣書記官長に就任した。国際連盟脱退論の中心に立ち、またのちの<大東亜共栄圏>構想の先駆的な考えを抱き、平沼騏一郎を擁して革新体制樹立計画をすすめたが、

五一五事件・1932 = 50歳：*軍部と提携して満洲事変追認政策を推進、国際連盟脱退を暗示する演説や'アジアに還れ'と講演するなど、挙国一致政治への傾斜を強めて犬養首相らと対立の矢先<五・一五事件>で内閣総辞職、直後に没した。